別紙様式

令和５年度　学校評価自己評価表　（最終）

a ミッション	【校訓】「こころひろく ゆめおおきく」　ふるさとに誇りをもち，自分を愛し，夢を語る児童の育成	ビジョン【学校教育目標】自ら学び　たくましく生きる〔学校経営目標〕関わり合い　つながりあう　せらにし小学校 【めざす学校像】○一人一人を大切にする学校○授業を大切にする学校○地域や家庭を大切にする学校 【めざす児童像】○自ら考え，自ら学ぶ児童○ふるさとに誇りをもつ児童○自らを鍛え，自らを管理する児童 【めざす教職員像】○学校教育目標に向けて協働する教職員○教育のプロとしての自覚と誇りをもつ教職員○資質・能力の向上に努める教職員○法を遵守し，公教育の責任を果たす教職員	【育成を目指す資質・能力】 【知識及び技能】知識・技能 【思考力・判断力・表現力等】思考力・判断力・表現力 【学びに向かう力・人間性】主体性・自らへの自信

世羅町立せらにし小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策 （取組指標を含む）	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力	「授業づくり」・「学びのベース」により，主体的に学び，思考力や表現力を高める児童を育成する。	【関わり合う授業づくりプロジェクト】 ○主体的・対話的で深い学びとなるような単元を構成し，課題発見解決学習の充実を図る。	○「考える」課題・発問を設定し，教師のファシリテート力を高め，児童の発言が主体となるような授業づくりをする。	○自分たちで学習のめあてとまとめを設定することができた授業の割合（教師の自己評価）	80%	72.7%	100%	125%	A	○算数科を中心に，全学年で学習の流れを統一して授業を行った。めあてやまとめを自分達で設定することができる授業が増えている。指導内容によって児童に考えさせる場面と教師が教える場面を分けて，授業づくりをしていく必要がある。				○児童に考えさせたり話し合わせたりする時間が増えており，児童の考えが交流される授業づくりができてきている。教師が教えるべきところと子ども達に考えさせるところを明確にするとともに，児童の考えをつないでいくようなファシリテート力を高めていく。
			○算数の授業において，練り上げ場面では，教師は対話の視点を明確にして，「対話の達人」を活用しながら対話の充実を図る。	○標準学力調査を参考にした自作問題の校内平均正答率	70%	75.4%	77.5%	111%	A	○「対話の達人」や「対話の視点カード」を活用し，授業に対話場面を取り入れたことで，思考力や表現力が高まっている。2学期中に4回，学習した内容に関する自作問題に取り組ませ，校内平均正答率は77.5%に達した。しかし，70%以上正答している児童の割合は，1学期は66.7%だった。そこで，70%以上正答する児童の割合を75%以上にできるように，より対話を重視し，自ら考える授業改善を行った。その結果，2学期末の割合は74.7%までになった。目標としていた75%には達しなかったが，授業改善や日々の取組の成果が出たと思う。次年度もこれらの取組を継続して行っていきたい。				○小テストを継続することで，児童も自分で漢字の定着率の向上を実感するとともに，主体的に学習しようとする姿がみられるようになっている。今後も取組を継続し，特に高学年は，正答率70%以上の児童の割合を維持できるようにする。
		【関わり合う学びのベースプロジェクト】 ○「読み・書き・計算」などの，基礎学力を定着させる。	○朝の会において，各学級で「今日のことば」として慣用句や四字熟語などを紹介し，語彙の充実を図る。	○漢字のテストにおいて，期待正答率を達成する児童の割合	70%	83.9%	85%	121%	A					○小テストを継続することで，児童も自分で漢字の定着率の向上を実感するとともに，主体的に学習しようとする姿がみられるようになっている。今後も取組を継続し，特に高学年は，正答率70%以上の児童の割合を維持できるようにする。
			○朝会に漢字の書き取り，つばきタイムに計算を継続して行う。	○計算の個人目標（時間・正答率など）を達成する児童の割合	80%	89.8%	87%	108%	A	○１学期の課題をもとに，それぞれの学年の実態に応じた漢字の定着に向けた取組にすることで，結果につなげることができた。				○つばきタイムでの取組を毎日行うことで，計算力の定着につながってきている。今後も学年や児童の実態に応じた計算内容や目標を設定するなどして，定期的に，意識しながら取り組ませていく。
		○読書活動を充実させる。	○全校読み聞かせ，読書朝会，親子読書等の読書活動を通して月に1回「読書紹介カード」を作成させ，読書に親しむ習慣をつける。	○読書に対して肯定的な回答をする児童の割合（児童アンケート）	80%	76.4%	79.1%	98.9%	B	○たし算，ひき算，かけ算の１００マス計算だけでなく，学年の学習に応じた様々なパターンの計算に取り組ませた。前期に引き続き，８０％台の水準を保つことができた。 ○これまでの継続として，毎週2回の本の貸し出し，毎月１回のせらにし家族の日での読書紹介カードの作成を行った。さらに，毎月２回，図書委員会による本の読み聞かせを実施した。図書室を利用する児童は増えた				○読み聞かせの活動が図書委員会だけの取組になっている。高学年による読み聞かせを計画的に実施し，本を読む機会を設ける。また，図書委員会と新たな取組を考え，本と触れ合う時間を増やす。
豊かな心・特色ある学校づくり	せらにしに誇りをもつ児童の育成を行う。	【つながり合うふるさとプロジェクト】 ○「道徳科」の授業改善を行い，児童の道徳的価値を高める。	○本校の重点項目「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」を中心とした「道徳科」の授業研修を行い，授業改善を図る。	○授業の様子を動画に撮り，授業改善を行った教職員の割合	100%	67%	75%	75%	C	○授業の動画を撮って授業改善を行った教職員の割合は，75%であった。授業後に，授業の展開や児童の考えの取り上げ方，考えを深めるための発問などについて話をする時間を短時間でも取ることができた。				○授業の動画撮影は，3学期にも行い，100%を目指す。また，授業終わりに，児童の反応に対する切り返しの発問や声掛け等の良かった点を交流し，次の授業に生かしていく。 ○研修で学んだことや日々の取組の積み重ねで得たことを全体で共有することで，教師の道徳科の授業力を向上させ，児童の道徳的価値観を高めていく。
				○道徳アンケート「今住んでいる地域が好きだ」と答える児童の割合（児童アンケート）	90%	97%	93%	103%	A	○児童アンケートの結果は，９３%であった。地域学習やコミュニティースクールの取組の成果ではないかと考えられる。				○道徳科の地域教材の良さを生かし，児童が「せらにし」のよさを考え，実感できる機会を設けることができてきている。また，これからも他教科や総合的な学習の時間との関わりを持たせながら道徳科の授業を行い，児童の道徳的価値や郷土愛を高めていく。
	自信・主体性を培う。	○ふるさと学習の推進を行いせらにしに誇りをもつ児童の育成を行う。	○せらにしのよさをたくさん発見し，せらにしに誇りをもつ児童を育てる。（内容例　「せらにし小　太鼓」「産業」「環境」「福祉」等）	○「自分は人の役に立っていると思う。」と言える児童の割合(児童アンケート)	80%	71.4%	73%	91%	B	○達成値は，向上させることができたが目標値を達成することができなかった。7月には，もともとの目標値を達成したため，目標値を80%と再設定した。地域学習やコミュニティスクールの取り組みの結果が少しずつ効果を発揮してきている。				○前期の結果を踏まえて，目標値を８０%とし，さらなる向上をめざした。73%と目標値には届かなかったが，前回の結果よりも肯定的に回答する児童が増えた。これからも地域学習やコミュニティスクールを充実させて，自己有用感を高める。
		○地域に信頼される学校をめざし，コミュニティ・スクールを充実させる。	○学校からの情報発信や学校に来てもらう機会を設定し，学校の取組を地域の人に知ってもらう。子供を地域に返す。	○「せらにしのよさを実感できる取組ができた。」と言える教職員の割合（教職員アンケート）	80%	100%	100%	125%	A	○目標値を達成することができた。各学年や学校全体で地域との関わりのある取組が行われていることが成果へつながったと考えられる。また，学校だより，広報誌等で情報発信を行うことができた。				○前回と同様に肯定的に答える職員は100%であった。児童を対象とした「今住んでいる地域が好きだ」と肯定的に答える児童の割合が93%であったことから，今年度の取組が充実していたと考える。また，継続して学校だよりや学級便り等で情報発信していき，コミュニティ・スクールとしてのせらにし小学校の取組について地域の方や保護者の方の理解を図り，取り組みを深めていく。
健やかな体	自らを鍛え，自らを主体的に管理する力を育てる。	【つながり合う体力つくりプロジェクト】 ○体力・運動能力テストの課題を基にした取組を行い，体力の向上を図る。	○柔軟性を高める。 ・体育朝会のワイプ，体育の準備運動の柔軟タイム，柔軟運動の家庭学習を行う。 ・「体力カルテ」を作成し，自己の目標を設定させ，記録の向上につなげる。	○長座体前屈における測定値が全国平均の記録を更新する児童の割合 《体力テストの結果から修正》 ●ボール投げにおける測定値が全国平均の記録を更新する児童の割合	70%	75%	―	107%	A	○投力と筋持久力を高めるために，準備運動時に上体起こしを取り入れた。 ●継続できた学年とそうでない学年があった。				○投力と筋持久力を高める。 ・準備運動時に上体起こしを取り入れる。 ・ボールゲーム運動の中で，投げる運動を意図的に仕組んだゲームを行う。その際，投球フォームの確認をしたり，すべての児童に投げる回数を確保したりする。 ・再測定に向けて，児童個々に目標値を設定させる。
						50%	75%	107%	A	○外部講師を招き，投げる時の正しいフォームを指導していただいた。1月に再測定を行ため，児童個々に目標値を設定させ計測する。				
		【つながり合う食育プロジェクト】 ○食に対する感謝の気持ちを高める。	○つばきっ子ふれあいファームで，地域の方と農業体験をする。	○児童アンケート「食べ物や食べ物を作ってくださる方に感謝して食べています。」に対して肯定的回答をする児童の割合	80%	97.8%	98%	122%	A	○つばきっ子ふれあいファームで，地域の方とさつまいもの収穫を行った。収穫したさつまいもは，家庭に持ち帰ったり，学校給食で使用し，調理過程を 児童に見せることで，食に対する興味関心を引き出し，感謝の気持ちを育んだ。				○つばきっ子ふれあいファームでの取組は継続して実施する。 ●学年で取組内容に差があるので，取組内容を見直す必要がある。

【自己評価】A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60 ″口

【学校関係者評価】　イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。